



証券コード：3422

決算のご報告

2024年4月1日から2025年3月31日まで

株主通信

A red diagonal banner with a white circuit-like pattern. In the background, a white line-art schematic of a car is visible. The text 'Make our dreams by Technology' is written in white on the banner.

Make our dreams by Technology

株主の皆様へ

ご挨拶



平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび当社第67期決算(2024年4月1日から2025年3月31日まで)を終了いたしましたので、ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年6月

代表取締役 社長執行役員

山崎 英次

連結業績の概況

当連結会計年度における世界経済は、欧米における高い金利水準の継続及び中国における不動産市場の停滞が続く中、インフレの沈静化や世界貿易の持ち直しを背景に景気は底堅く推移しております。日本では雇用及び所得環境の改善による個人消費の持ち直しに加え、インバウンド需要の拡大等により、景気は緩やかに回復しております。

当社グループが属する自動車業界においては、日本では一部自動車メーカーの認証不正及び品質問題による出荷・稼働停止等の影響により国内生産は減少いたしました。タイでは高水準の家計債務及び自動車ローン審査の厳格化等の影響により、市場は低迷しており、厳しい状況が続いております。中国では各地で実施された自動車の買い替え推進政策や完成車メーカー各社による販売促進策等が好材料となり、好調を維持しております。一方で日系自動車メーカーは、新エネルギー車の需要拡大の対応遅れ及び低価格の新エネルギー車登場による競争激化等により、生産台数は減少しており、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、中長期5か年計画の2年目として、電動化・軽量化に集中した電動化サプライヤーへの転換及び事業構造改革推進による持続可能な企業体質の構築を注力テーマとして取り組んでまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は47,102百万円(前年同期比13.3%減)、営業利益は19百万円(前年同期比98.2%減)、経常損失は535百万円(前年同期は731百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純損失は、構造改革に伴う特別損失を計上したことに加え、広州及び武漢拠点において繰延税金資産を取崩したこと等により、3,282百万円(前年同期は1,026百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

当社グループでは、事業規模拡大による持続的な成長と効率性の高い事業運営を目指し、売上高・営業利益・ROA(総資産営業利益率)を中長期5か年計画のKPI(重要業績評価指標)としておりますが、近年の自動車業界における電動化シフトによる事業環境の変化に伴い、グループ全体で構造改革を実施しており、目標値への到達は当初の予定から3年程度後ろ倒しになる予定であります。

トピックス

Topics
1

福建丸順社 新工場稼働

福建丸順社は、2025年3月に新工場を稼働いたしました。

中国における電動化ビジネスの基盤強化と能力拡大を図るべく最新鋭の設備を導入した本工場は、オートタンデムプレスラインを筆頭に、自動溶接ライン、カチオン/PVC塗装ラインと電動化部品生産の多くの工程を社内で完結出来る体制を構えており、中国セグメントにおける競争力強化に貢献しております。

また本工場所在地である福建省は、車載電池世界シェアNo.1のCATL社が本社を構えるほか、周辺地区も今後の発展が見込まれる地域であり、CATL社との更なる関係強化と受注拡大を図るとともに、中国系メーカーへの販路拡大を強力に推進してまいります。

今後も成長が見込まれる電気自動車市場において、引き続き積極的な営業活動を推進することで、更なる受注拡大に努めてまいります。

福建工場概要

▶ 自動車部品製造 (大型バッテリーケース/カバー)

所在地：福建省福州市羅源県

土地：約38,000㎡(約11,500坪)

建物：約30,850㎡(約9,100坪)

従業員数：112名 ※2025年3月時点

主要設備：2000ton オートタンデム プレスライン
(全工程TOTAL：5230ton)

1000ton/800ton タンデムプレス 各1台

自動溶接ライン、カチオン/PVC塗装ライン等



福建工場生産車種例



GAC (広州汽車集団)_AION



Xiaomi (小米集団)_SU7

バッテリー構成部品イメージ

COVER



BRKT



CASE



UNDER COVER



J-MAXは、2025年2月に岡山工場の建設を完了いたしました。本工場は、岡山県浅口市内の幹線道路沿いに面しており、山陽自動車道 鴨方ICまで車で10分圏内という好立地から、岡山地区の自動車メーカー向けのみならず中国・九州地方への部品供給も可能です。

また東海地区の生産設備とも互換性を持った高効率かつ最新鋭の設備導入により、フレキシブル生産や生産変動にも対応可能となり、日本国内における盤石な生産体制の構築を担う重要拠点となっております。

現在はモデルチェンジに伴う新規部品の立上準備や既存部品の移管等、2025年7月からの本格量産開始に向けて着々と準備を進めております。

岡山工場概要

自動車部品製造（ボディ部品）

従業員数：12名 ※2025年3月時点

（稼働開始時は30～40名予定）

所在地：岡山県浅口市鴨方町

土地：約23,000㎡（約6,900坪）

主要設備：3000tonトランスファープレス 1台

建物：約8,000㎡（約2,400坪）

800tonプログレプレス 1台



岡山工場
生産車種例



NISSAN
ROOX



MITSUBISHI
DELICA MINI

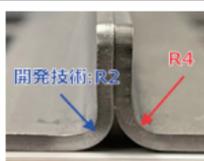
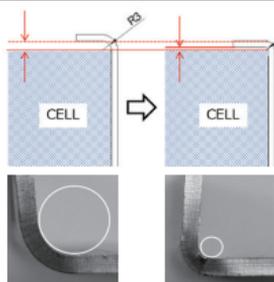
特許取得（高張力鋼板の極小R曲げ加工技術）

当社は、国内の電気自動車に搭載されている「バッテリーモジュール拘束体フレーム（以下、フレーム）」の生産を行っており、この度2025年3月にフレーム曲げ加工に関する特許を取得しました。

これは、高張力鋼板をより直角に近い形状に成形する技術となります。従来の技術では、高張力鋼板において曲げ半径を小さくすると、曲げ部における外側と内側で応力差が発生し、割れが生じるといった課題がありました。しかし今回の特許技術は、曲げ部の外側と内側の応力差をコントロールすることで曲げ半径をR2まで縮小しても割れることなく、直角に近い製品形状を実現しました。これは車体の限られたスペース内で、バッテリーセルを効率良くレイアウトすることが可能となり、自動車の軽量化に寄与する技術となります。

当社「電動化・軽量化に集中した電動化サプライヤーへの転換」に向け、研究開発の面からも競争力強化を図っております。

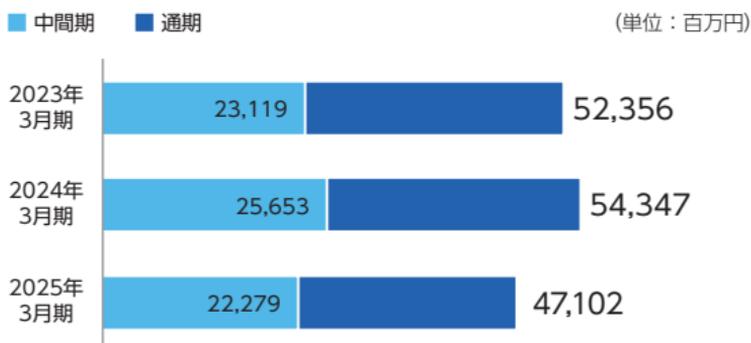
新工法概要と効果イメージ



連結決算ハイライト

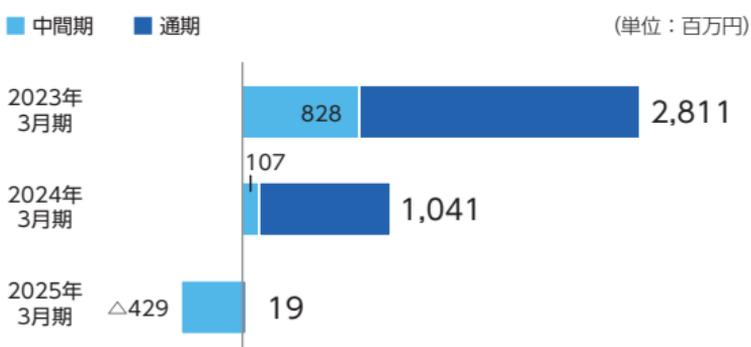
売上高

47,102百万円 • 前年同期比 ↓



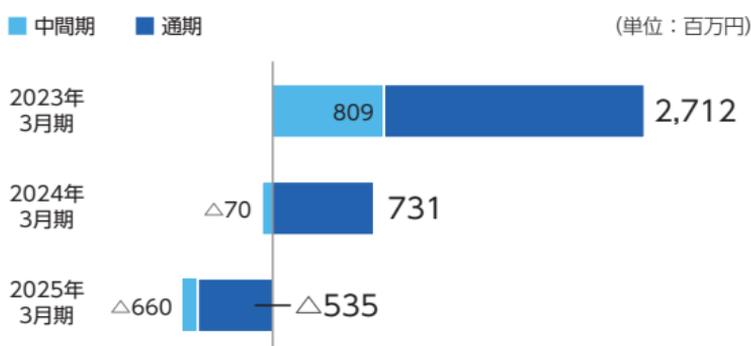
営業利益

19百万円 • 前年同期比 ↓



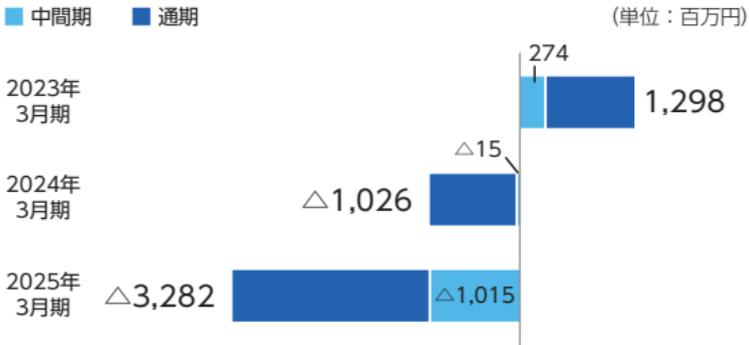
経常利益

△ 535百万円 • 前年同期比 ↓



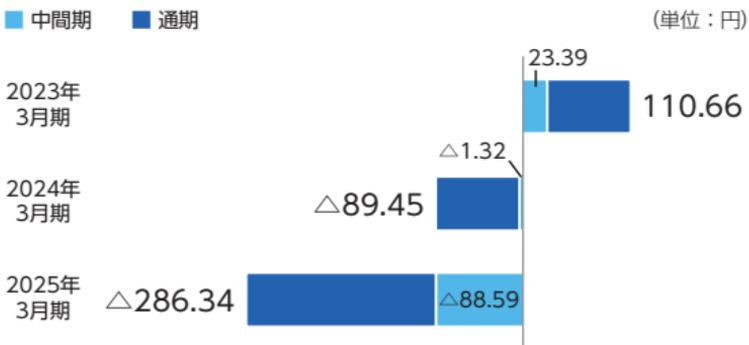
親会社株主に帰属する当期純利益

△ 3,282百万円 • 前年同期比 ↓



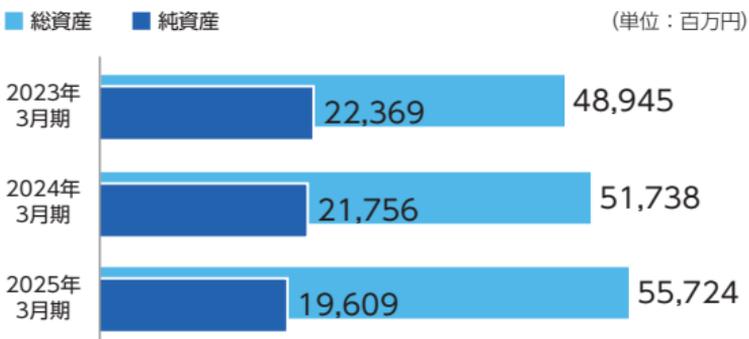
1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益

△ 286.34円 • 前年同期比 ↓



総資産・純資産

55,724百万円 • 19,609百万円



連結財務諸表

連結損益計算書について

売上高は、海外拠点を中心とした主要客先の減産影響により全拠点で減収となりました。

利益面については、海外拠点における要員及び生産能力の適正化や生産工場再編等の構造改革推進に加え、国内の原価・販管費削減施策を実行するも、主要客先の生産車種構成変化や減産影響により営業利益、経常利益ともに減益となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は、固定資産廃棄損、減損損失、特別退職金等の構造改革費用を特別損失に計上したことに加え、広州及び武漢拠点において繰延税金資産を取崩したこと等により、減益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書について

現金及び現金同等物の残高は6,565百万円となり、前連結会計年度末に比べ573百万円増加いたしました。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純損失2,377百万円、子会社株式売却益2,121百万円、減価償却費4,393百万円、減損損失2,372百万円、棚卸資産の増加額993百万円等によるものです。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出8,589百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入2,121百万円等によるものです。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金2,743百万円の増加、長期借入金2,258百万円の増加等によるものです。

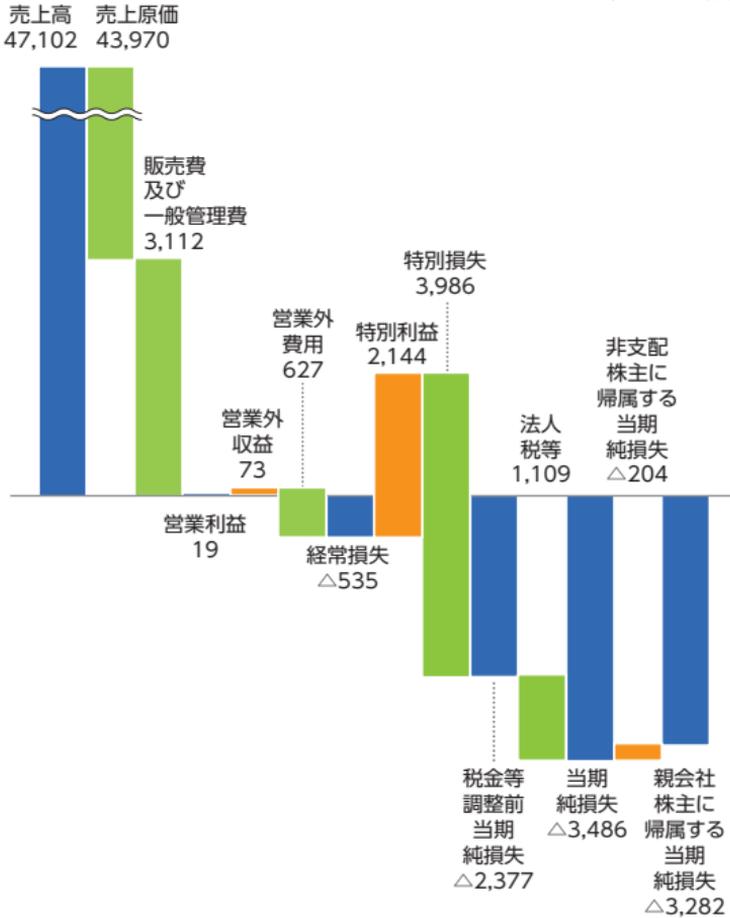
連結貸借対照表について

資産総額の増加要因は、建物及び構築物が1,718百万円増加、機械装置及び運搬具が2,537百万円増加したこと等が要因であります。負債総額の増加要因は、短期借入金3,539百万円増加、社債が1,000百万円増加、長期借入金1,607百万円増加したこと等が要因であります。純資産の減少要因は、利益剰余金が3,409百万円減少、為替換算調整勘定が1,369百万円増加したこと等が要因であります。

連結損益計算書 (要旨)

2024年4月1日～2025年3月31日

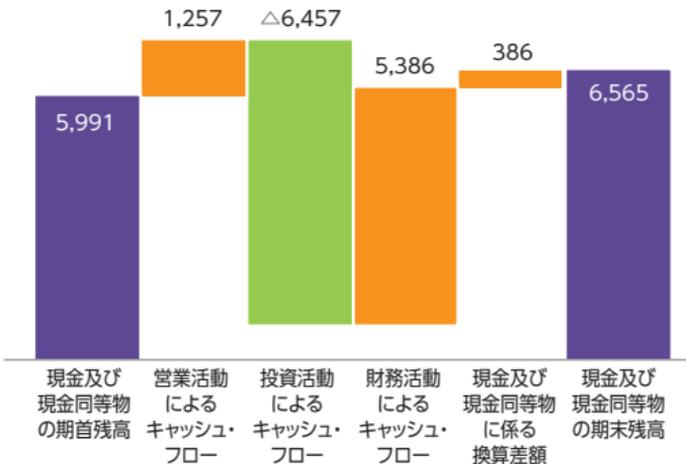
(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

2024年4月1日～2025年3月31日

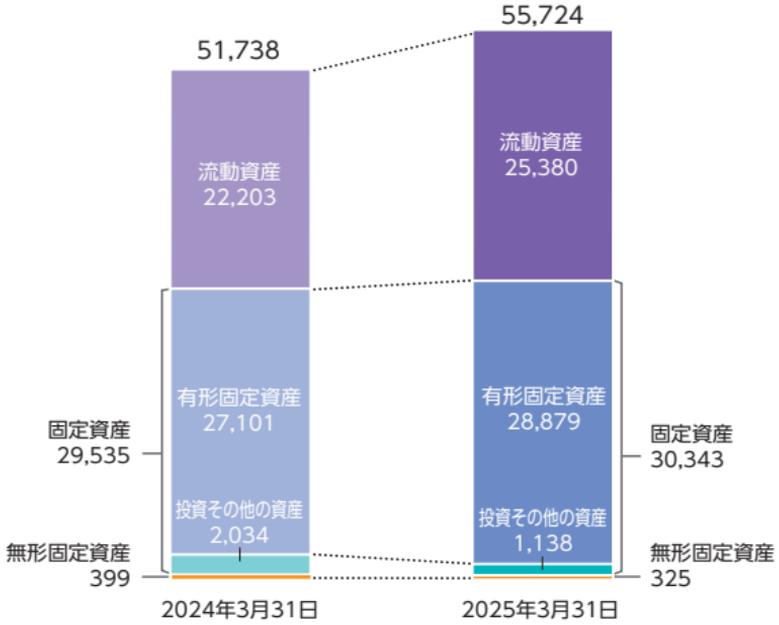
(単位：百万円)



連結貸借対照表 (要旨)

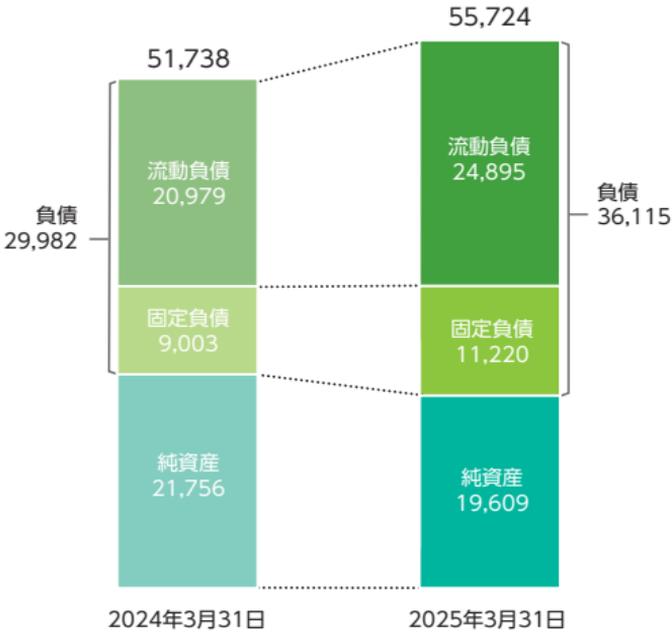
資産の部

(単位：百万円)



負債・純資産の部

(単位：百万円)



(単位：百万円)

《資産の部》内訳		2024年3月31日	2025年3月31日	
流動資産	現金及び預金	5,991	6,565	
	受取手形	1,201	1,198	
	売掛金	10,513	10,955	
	商品及び製品	472	520	
	仕掛品	1,792	2,900	
	原材料及び貯蔵品	1,376	1,338	
	その他	967	2,023	
	貸倒引当金	△113	△121	
	固定資産	有形固定資産	建物及び構築物	4,062
機械装置及び運搬具			5,599	8,137
工具、器具及び備品			8,248	5,247
土地			1,247	1,683
リース資産			1,456	1,225
建設仮勘定			6,486	6,804
無形固定資産			399	325
その他の資産		投資有価証券	353	290
		退職給付に係る資産	252	258
		繰延税金資産	1,084	221
	その他	354	379	
	貸倒引当金	△10	△10	

(単位：百万円)

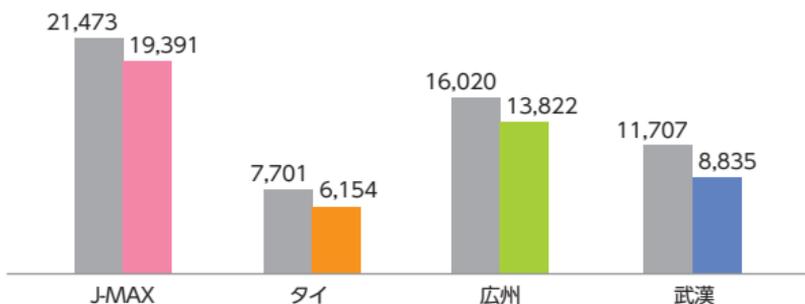
《負債・純資産の部》内訳		2024年3月31日	2025年3月31日	
負債の部	流動負債	支払手形及び買掛金	6,760	6,250
		短期借入金	9,061	12,601
		1年内返済予定の長期借入金	1,150	1,992
		リース債務	356	401
		未払金	1,561	1,387
		未払法人税等	166	22
		賞与引当金	256	159
		役員賞与引当金	16	—
		その他	1,650	2,080
	固定負債	社債	1,500	2,500
		長期借入金	5,146	6,753
		リース債務	1,125	830
		退職給付に係る負債	940	826
		役員株式給付引当金	42	29
資産除去債務	247	251		
その他	1	28		
純資産の部	株主資本	資本金	1,950	1,950
		資本剰余金	2,136	2,225
		利益剰余金	11,110	7,700
		自己株式	△296	△282
	その他の包括利益累計額	その他有価証券評価差額金	99	61
		為替換算調整勘定	4,708	6,078
		退職給付に係る調整累計額	197	209
非支配株主持分	1,849	1,665		

セグメント別業績

セグメント別売上高

(単位：百万円)

■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期



減収減益

【株式会社 J-MAX】

J-MAXにおいては、主要客先向け自動車部品の生産減少に加え、金型設備等の販売が減少したことにより、売上高は減少いたしました。また、売上減少に伴う固定費負担の増加及び生産車種構成変化の影響に加え、岡山工場準備費用の増加等により利益は減少いたしました。以上の結果、売上高は19,391百万円（前年同期比9.7%減）、経常利益は754百万円（前年同期比40.5%減）となりました。

J-MAXにおいては、新規受注先の拡大や新たな生産拠点の整備に加え、今後の競争力強化につながる研究開発の推進等、グループ全体の成長を牽引しております。

減収増益

【タイ・マルジュン社】

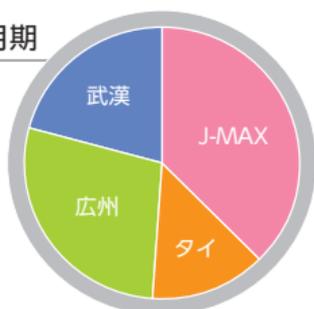
タイにおいては、主要客先の国内向け自動車部品及び汎用エンジン部品等の生産減少により、売上高は減少したものの、前期から継続して取り組んでいる構造改革として、要員適正化及び金型事業圧縮等を中心とした原価低減活動を推進したことにより、経常損失は大幅な赤字縮小となりました。

以上の結果、売上高は6,154百万円（前年同期比20.1%減）、経常損失は92百万円（前年同期は263百万円の経常損失）となりました。

タイにおいては、タイ国内及び輸出先である周辺国における市場が成熟化する中、固定費削減を中心とした構造改革推進により、利益体質の強化を図っております。

〈セグメント別売上高構成比率〉

2024年3月期

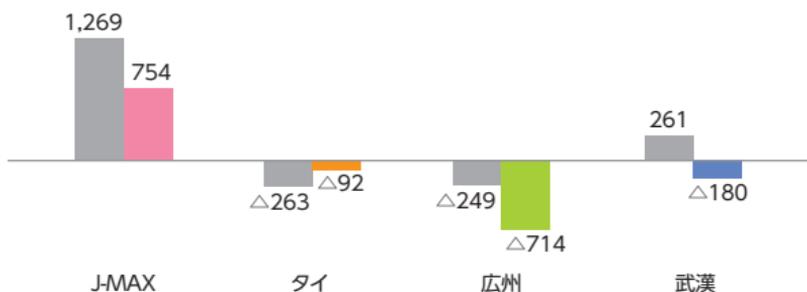


■ J-MAX 37.7%
 ■ タイ 13.5%
 ■ 広州 28.2%
 ■ 武漢 20.6%

セグメント別経常損益

(単位：百万円)

■ 2024年3月期 ■ 2025年3月期



減収減益

広州

【広州丸順汽车配件有限公司】

広州においては、構造改革により要員適正化及び生産能力適正化等の取り組みに加え、生産工場再編に伴う不要資産売却を推進する等、利益体質強化を図っているものの、主要客先の大幅な減産影響等により、売上高及び利益ともに減少いたしました。

以上の結果、売上高は13,822百万円（前年同期比13.7%減）、経常損失は714百万円（前年同期は249百万円の経常損失）となりました。

広州においては、持続可能な企業体質構築を図るため構造改革を推進するとともに、中国で加速する自動車電動化の需要を取り込むため、電動化に特化した工場を建設する等、電動化事業の拡大を展開しております。

減収減益

武漢

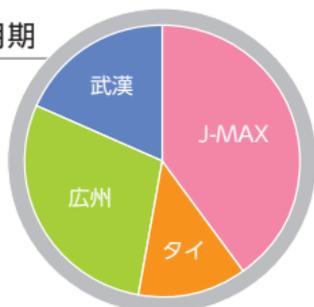
【武漢丸順汽车配件有限公司】

武漢においては、当期から開始した構造改革により、要員適正化に伴う労務費削減に加え、生産能力適正化等に伴う設備費、経費等の原価低減活動に取り組んでいるものの、主要客先の大幅な減産影響により、売上高及び利益ともに減少いたしました。

以上の結果、売上高は8,835百万円（前年同期比24.5%減）、経常損失は180百万円（前年同期は261百万円の経常利益）となりました。

武漢においては、生産効率化及び原価低減活動等による企業体質強化の取り組みに加え、異素材加工の差別化技術の確立やEV市場の伸長による受注先の拡大等に取り組む、新たな収益基盤の構築に努めております。

2025年3月期



会社の概要

会社概況

(2025年3月31日現在)

商号

株式会社 J-MAX
(英文社名: J-MAX Co.,Ltd.)

創業

1952年7月

設立

1960年1月

資本金

1,950百万円

事業内容

自動車用車体プレス部品の製造
自動車用精密プレス部品の製造
各種金型の設計・製作
治具・検査具の設計・製作

従業員数

296名 (連結1,268名)

電話番号 (代表)

0584-46-3191

役員体制

(2025年6月20日現在)

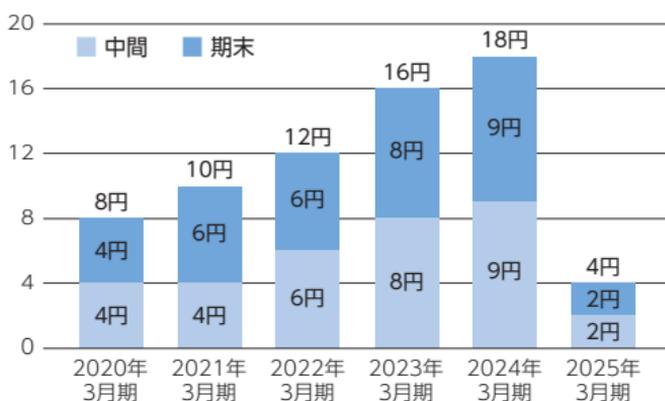
取締役

代表取締役	山崎 英次
取締役	猪熊 篤俊
取締役	棚橋 哲郎
取締役	松浦孝一郎
取締役(常勤監査等委員)	青山 秀美
社外取締役(監査等委員)	竹内 治彦
社外取締役(監査等委員)	澁谷 英司

執行役員

社長執行役員	山崎 英次
専務執行役員	猪熊 篤俊
常務執行役員	棚橋 哲郎
上席執行役員	松井 恒夫
上席執行役員	森 和行
執行役員	小見山 肇
執行役員	本田 喬之
執行役員	石原 裕文

配当金の推移



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策として認識しております。現中長期5か年計画(2024年3月期~2028年3月期)期間におきましては、成長戦略による収益拡大に合わせ、配当性向20%を基準とする方針としております。しかしながら、当社グループが属するアジアの自動車市場においては、中国を中心に急速に電動化シフトが進んでおり、ローカル部品メーカーの台頭に加え、主要客先の生産減少が継続する等、当社を取り巻く環境は厳しさを増しております。また、グループ全体で構造改革を実施しており、中長期経営計画の目標値への到達は当初の予定から3年程度後ろ倒しになる予定であります。

上記方針及び当社を取り巻く環境等を総合的に勘案し、当期における年間配当金は、1株につき4円(中間配当は2円、期末配当は2円)とさせていただきます。

株式の状況

(2025年3月31日現在)

株式数及び株主数

発行可能株式総数

39,000,000株

発行済株式の総数

11,857,200株

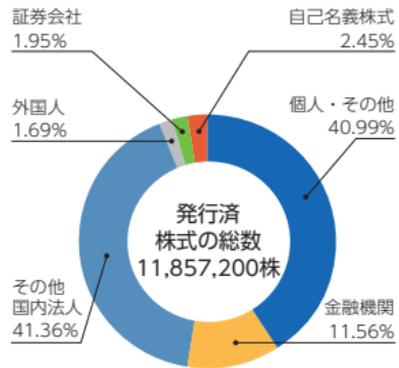
(自己株式290,289株含む)

株主数

3,166名

株式数構成比

(2025年3月31日現在)

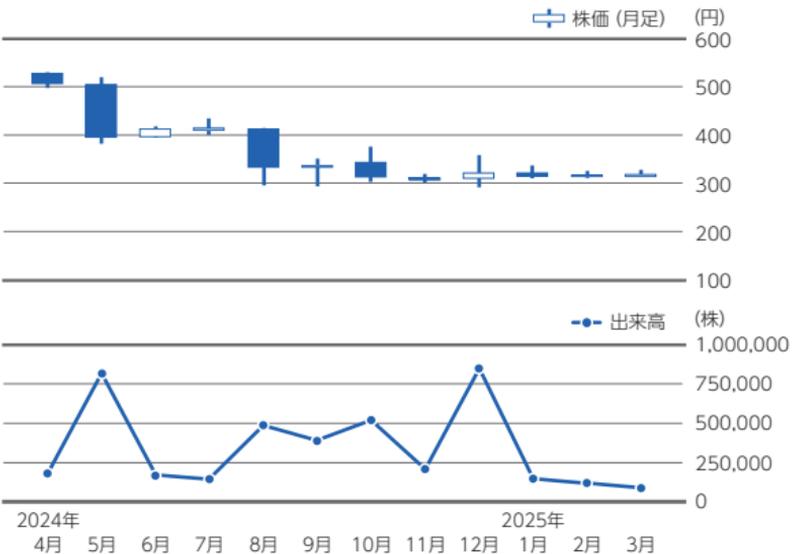


大株主の状況 (2025年3月31日現在)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
東プレ株式会社	2,370,700	20.50
今川 喜章	1,022,770	8.84
本田技研工業株式会社	988,950	8.55
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	468,400	4.05
J-MAX取引先持株会	371,000	3.21
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.21
今村金属株式会社	351,000	3.03
株式会社三菱UFJ銀行	325,000	2.81
株式会社大垣共立銀行	300,000	2.59
有限会社イマガワ	300,000	2.59

(注) 当社は、自己株式290,289株を保有しております。持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株価チャート

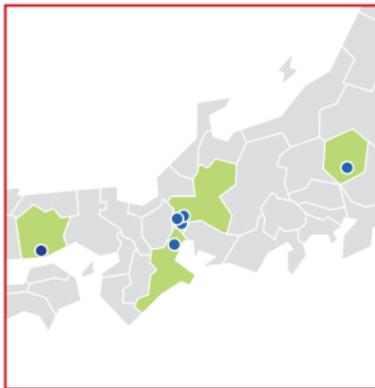


株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

事業拠点 (2025年6月20日現在)



本社・上石津工場

岐阜県大垣市上石津町乙坂130-1

浅西工場

岐阜県大垣市浅西3-22-22

養老工場

岐阜県大垣市上石津町牧田2947-1

鈴鹿工場

三重県鈴鹿市国府町7755

(株式会社日本陸送内)

栃木開発センター

栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台143

ホンダロジスティクステナント棟201号室

岡山工場

岡山県浅口市鴨方町六条院中5100-1

広州丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国広東省広州市

広州経済技術開発区永和経済区

永盛路8号

武漢丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国湖北省武漢市

東湖新技術開発区光谷一路223号

福建丸順新能源汽车科技有限公司(子会社)

中華人民共和国福建省福州市

羅源県松山鎮鶴南路1号

タイ・マルジュン社(子会社)

NONG KHAE INDUSTRY ESTATE BAN

NONGSAMAK 62 MOO-6, KOKYAE, NONG

KHAE, SARABURI 18230, THAILAND

ベストックス・MM・インディア社(出資会社)

SPL-2B, TAPUKARA INDUSTRIAL AREA, KHUSHKHERA,

DISTT. ALWAR, RAJASTHAN-301707, INDIA